

フンザの春

小国寡民の研究 桃源郷の政治学

小 林 幹 夫

〔キーワード〕

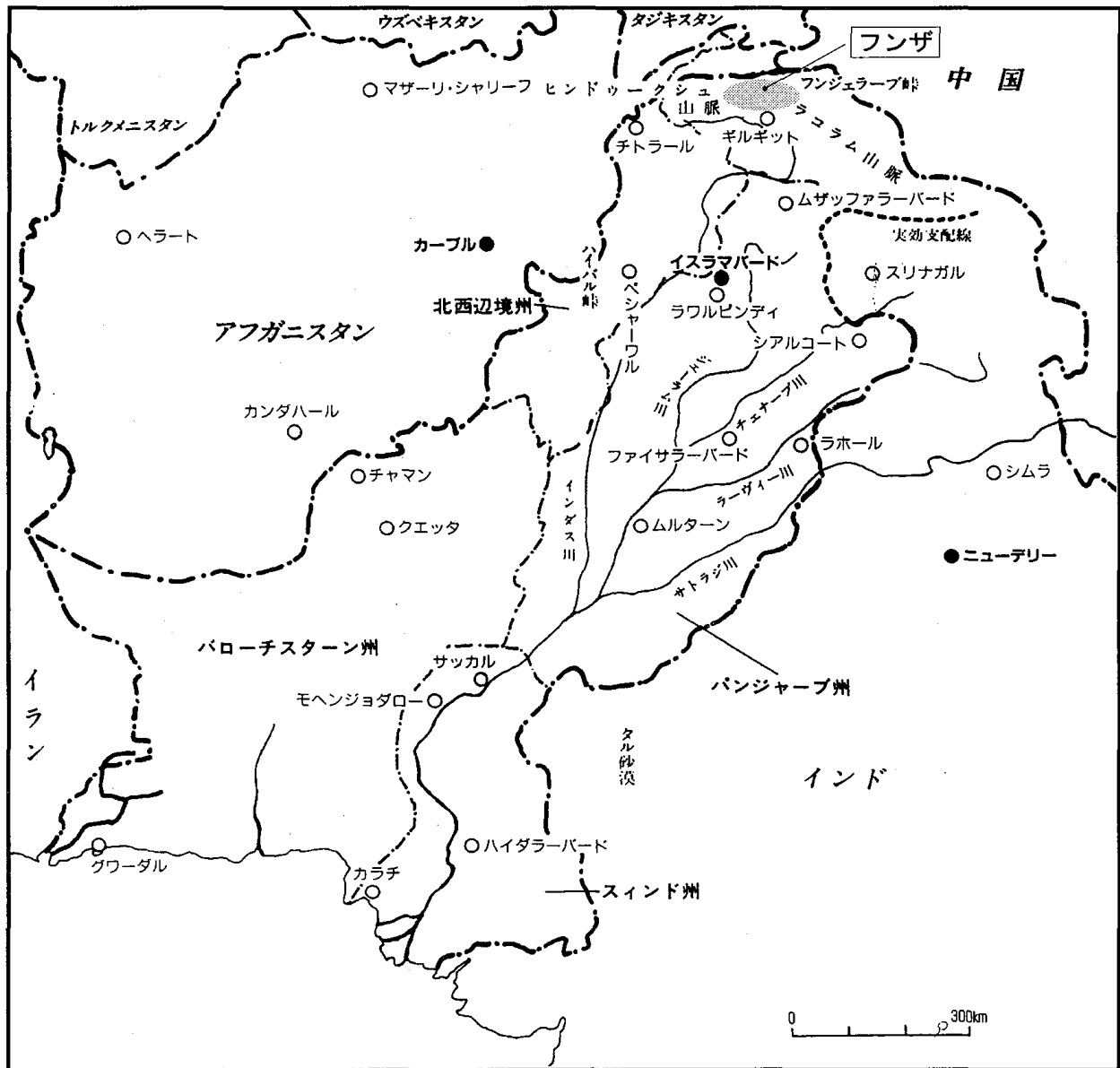
小国寡民 (Small Country and Small Population)

フンザ (Hunza)

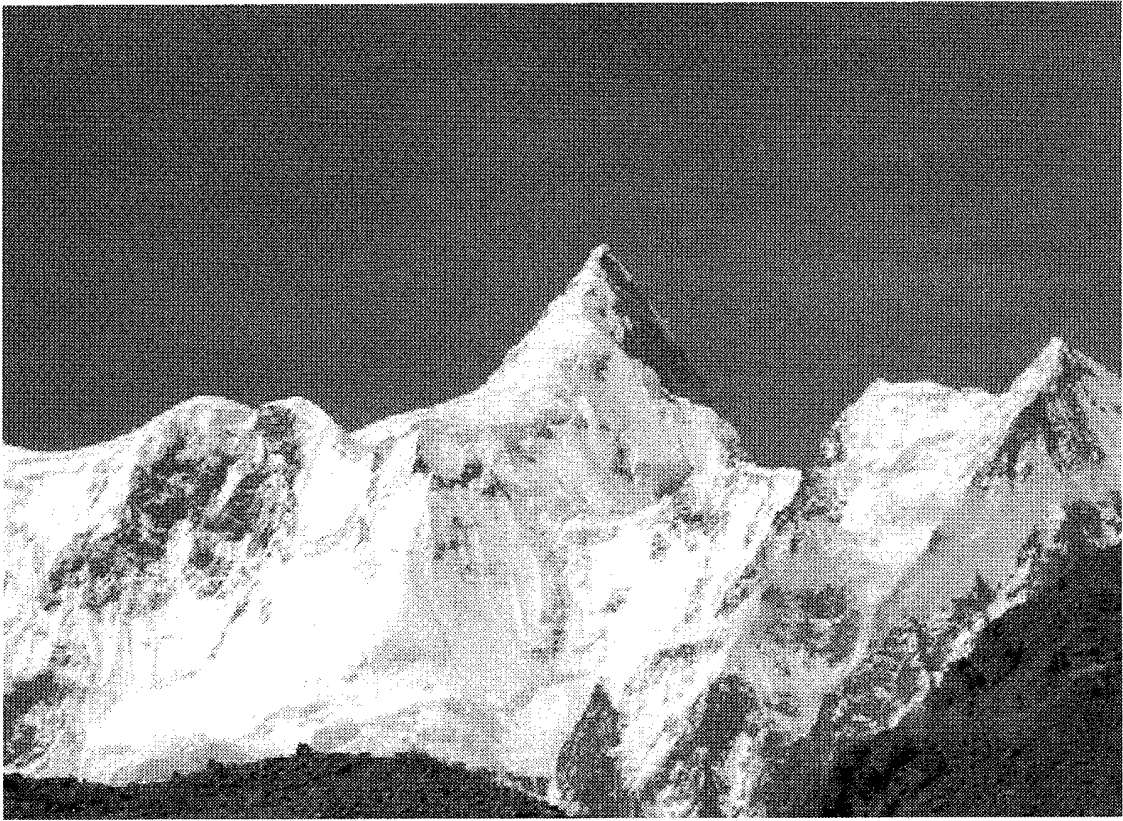
桃源郷 (Shangri-la)

現代政治分析 (Modern Political Analysis)

アレキサンダー大王 (Alexander the Great)



フンザの春



シスパーレ (7610m)



ホーパル氷河

酸素欠乏のフンザで飲んだビールがいけなかったのか、深夜、腹が洩り、寝そびれた。

まだ夜は明けない。思い切ってカーテンを開け、またベッドに潜り込んだ。外を見ていた。ベッドの足元、上方にウルタル・ピーク（7388 ㍎）の頂が闇の中に仄見えた。

頂の際に灯がともっている。山小屋の灯か。自家発電かしら。しかし、あんな所に何か所も山小屋があろうか。6時を過ぎている。そのうち灯は頂から姿を現した。山頂の尖端が後光を帯びて照らし出された。朝陽だった。朝陽は峰峰を駆け下り、杏花が咲き、ポプラが林立する春の村を照らした。もう村人は歩いていた。

フンザはパキスタン北部、中国との国境にある。人口4万7千の小さな「国」。旧ソ連のコーカサス地方、南米エクアドルのビルカバンバと並んで「世界三大長寿村」といわれている¹⁾。



フンザの春

1974 年 10 月までフンザ・ステートとして藩王（ミール）が治める自治領だった。1891 年に英国がフンザを征服，パキスタンに組み込まれる 1947 年まで英国の支配下にあった。紀元前 327 年から 325 年アレキサンダー大王の軍がパキスタンに侵入した際，フンザも占領され，村人はアレキサンダー大王軍の末裔だという。英国がフンザを占領したのは，ロシアがインド亜大陸へ進出するのを防ぐため，軍隊を 1897 年まで駐留させた。占領中，住民との混血が進んだ，とパキスタン人ガイドはいう。そのせいか金髪碧眼の美少女，美少年が多い。

藩王は現在その身分を失い民間人としてホテルなどを経営し生計をたてている。私が宿泊したホテルも藩王が所有するホテルの一つでダルバール・フンザ（Darbar・Hunza）というフンザきっての名門ホテルだ。といっても客の入りは極めて悪く宿泊客は私ども夫婦だけで，ホテル内の売店は一時閉鎖され，数十人はいると思われる従業員は手持ち無沙汰の態。1 週間に 2 回は停電があるため，各部屋にはろうそくと燭台が備えられていた。内装は木造で吹き抜けのロビーから見る山脈は圧巻だった。2 階の天井までガラス張りの壁面は木造の窓枠が景観を存分に楽しめるように設計されていた。3 月末（2001 年）とはいえ肌寒いロビーは暖房がなく，大型テレビには英国放送（BBC）やパキスタンの放送が流れ，従業員が眺めていた。

住民の暮らしは質素で，カラコルム・ハイウェー（といっても道幅の狭い山肌に張り付いたような簡易舗装の曲がりくねった街道で通常的高速道路とは違う）などの主要道路を一步それると，道は舗装してなく埃っぽい。間断なく崖が崩れ，ブルドーザーで道を塞ぐ土砂を片付けやっとなジープが通る場面にも遭遇した。小学生が教師の指導のもとで埃を猛然とたて道でサッカーに興じていた。手狭な校庭よりもサッカーをするには道路のほうがやりやすいからだろう。車もめったにこないようだし。

このフンザが桃源郷とか理想郷と言われるのはなぜか。英国の文豪ヒルトンが理想郷シャングリラを描いた「失われた地平線」のモデルはこのカラコルム山脈の山裾にあるフンザであったといわれている。山紫水明，不老長寿

の里であるためか。それとも、日本や欧米の旅行社が団体客を集めるために作り上げた「理想郷」神話なのか。

フンザは手作り絨毯、牧畜、農業と観光を主産業とする地区で、1人当たりの国民総生産（GNP）は高くない。

政治学の教科書として日本でも広く使われる「現代政治分析」(Modern Political Analysis)²⁾の著者ロバート・ダール (Robert A・Dahl) は同書の中で次のように述べている。

1人あたりの国民総生産（GNP）が高い国ほど学齢期の児童の就学率、識字率が高く、医師1人当たりの人口が少なく、幼児死亡率が低い。中略 社会の発展段階が低くなればなるほど、民主制への条件が厳しくなる。

ダールはポリアーキーという概念を使用して「民主主義国家」といわれる国家を分析している。民主主義の概念があいまいなため「民主主義国の民主化」という形容矛盾を避けるためだ。「民主主義国家」といわれている国の民主化度をそれによって計ろうとしているのだ。

ダールによれば、ポリアーキーは以下の特質を備えたある種の社会と密接に連動してきた。それらの特質とは、比較的高い水準の1人当たりの所得と富、長期間にわたる経済成長、都市化、減少傾向にある小さな農業人口、高い識字率、教育の普及、企業・労働組合・協会などの相対的に自立した多様な組織、そして乳児死亡率や平均余命などの福祉指数の高い水準である。

フンザをみれば、長寿者が多いことなどを除けばポリアーキーの特性をほとんど備えていない。ダールは高度のポリアーキーが理想郷であるといっているわけではない。しかし、この得点の高い国はそうでない国と比較して「民主化度の高い国家」としている。

一般に民主化度の高い国が理想的国家として考えられているが、「桃源郷」と呼ばれるためには別な尺度が用いられるのではなかろうか。

あるいは「地上に桃源郷があつてほしい。きっとどこかにあるはずだ」という現代人の願望に応える条件が。

標高7000に級の山々が連なる景観のすばらしさ。純白の雪を戴いた高山の裾

野にひろがる杏子や林檎の林。白や薄桃色の花びらが村を覆いカラコルムの雪融け水が流れる川は清流と呼ぶにふさわしい。透き通るような水が大河となって流れる。愛らしい子供たちと満ち足りた表情をした 100 歳を超してなおかくしゃくとしている老人。放牧されているヤギなどの家畜は少女にとって良い遊び相手だ。車が少なく、工場らしい工場もなく、環境汚染が少ない。こうした環境がフンザに「桃源郷」とか「シャングリラ」の異名を与えたのかもしれない。

桃源郷の条件は小国寡民

国家の目的は多種多様であるが、つづめて言えば国民に幸福を与えることではあるまいか。しかし「政治の限界」という壁が厳然と立ちはだかる。幸福という名の風船を国民 1 人ひとりに与える力は国家にはない、と現実主義者は主張する。幸福感は人それぞれ違う。満足させるためには無限に近い財政力を備えなければならないし、物質的満足感だけでは幸福にならない人もいる。

- (1) 貧しくとも、ひたすら平等社会を求める国家。毛沢東時代の中国はこの傾向があった。
- (2) 豊かな不平等社会。全体的に豊かではあるが、貧富の格差がはなはだしき米国のような国家。
- (3) 貧しさの中での不平等社会。

現在は (3) の国が世界で多いのではなかろうか。(3) の国家は果たして「理想郷国家」になりえないか。

老子は「国が小さく人口が少ない」国家（小国寡民）が「理想国家」であると考えた、らしい。中国文学者の守屋洋が 1973 年 12 月、馬王堆 3 号漢墓から出土した「帛書老子」に基づいて訳出した「老子」³⁾によると、老子が描く理想の社会あるいは国は、小さくて、人口も少ない「小国寡民」である。「老子」80 章には次のように描かれている。

かりに文明の利器に恵まれたとしても、人々は見向きもしないで、人生を楽しみ、他所へ移ろうとしない。船や車があっても乗ろうとしないし、武器はあっても手にとろうとはしない。敢えて読み書きを習おうとしない。それぞれの生活に満足し、それぞれに生活を楽しんでいる。鶏や犬の声が聞こえてくるようなすぐ近くに、隣の国があっても、往来する気などさらにない。

そういう国は、国というよりむしろ①小さな村落共同体②自給自足の経済体制③反文明の自然社会④隔絶した閉鎖社会——である、と守屋は老子流「理想国家」を位置付ける。

晋代の詩人、陶淵明は老子の「小国寡民」を基に「桃花源記」を書いた、と一般にいわれている。研究者の中には桃花源記は①収集した民話、あるいは伝説の一つにすぎない②隠れ里として実在する絶境の桃源郷をそのまま描いた③完全な創作だとするもの④民話に基づいて創作した——などさまざまな解釈が存在する⁴⁾。

中国の桃源郷

中国湖南省の奥地の武陵源は幻想的山々が連なり、中に小船が浮かべられる大きな洞窟があり「桃花源記」に出てくる秘境のようだ。

この武陵源に隣接してその名もずばり桃花源風景名勝区がある。桃花源は湖南省常德市西南 40 キロにあり中国四大道教聖地の一つで古来、陶淵明、李白、王安石など著名な文人墨客が訪れた地と同地の管理所発行パンフレットは説明している。現地ではここが桃花源記のゆかりの地であるとして、桃の花なども植えて宣伝している。

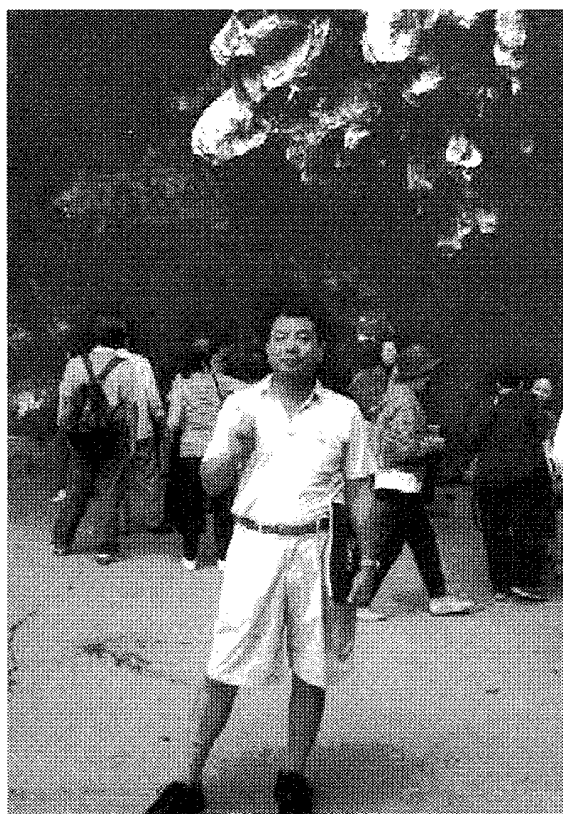
桃花源記にはその場所（桃花源）を連想する手がかりとして大略次のような記述がある⁵⁾。

晋の太元年間、武陵に、魚取りを生業としていた男がいた。ある日、谷川に沿って舟をこいでいくうちに、一面に咲きそろった桃の林に出会った。

フンザの春



武陵源に近い天子山



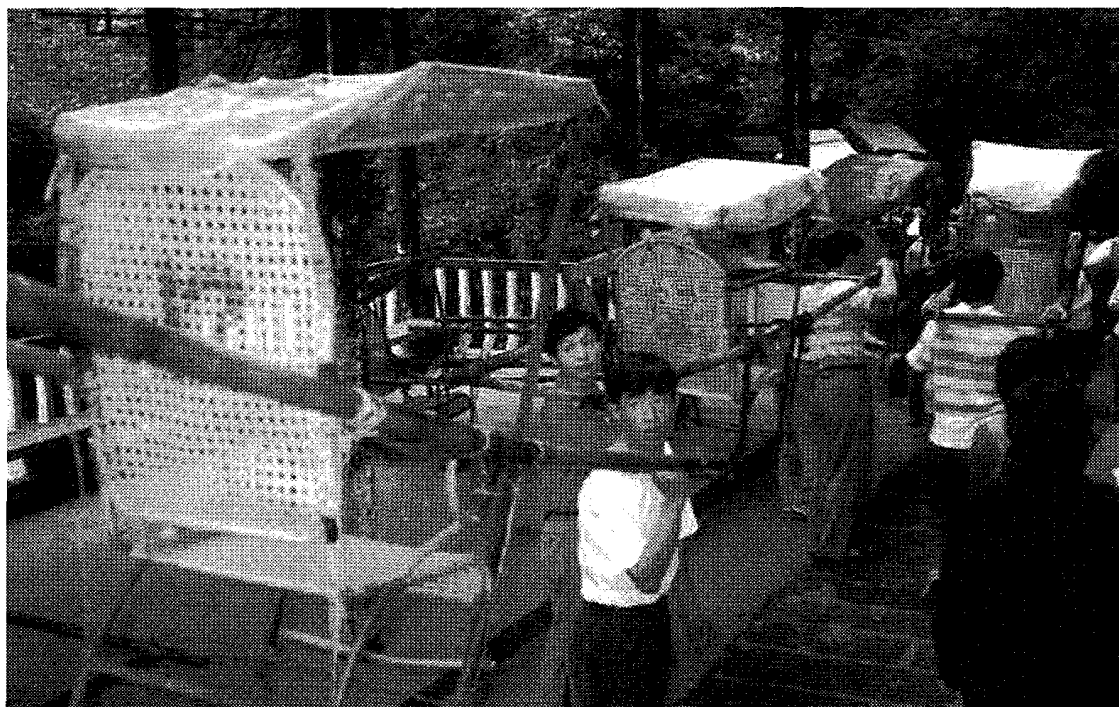
黄龍洞（鍾乳洞）

中略

(漁師がその川をさかのぼって行くと) 山があり、その山に小さな口があって、光線が射しているようであった。そこで、船から下りてその口に入り込んだ。最初のうちはひどく狭くて、やっと人ひとり通り抜けられるくらいだった。さらに数十歩行くと、からりと開けて土地は広く平らに、立派な家屋が立ち並び、よい田畑、美しい池、桑や竹の類があった。道は縦横に通じ、ニワトリや犬の声が聞こえた。その中を行きかい、畑仕事をしている男女の服装は、どれもみな外国の人のものであるが、老人や子供までみんなにこにこしていかに楽しげである。

桃花源地区の隣の武陵源に大きな洞窟があり、また武陵源風景区の中の張家界、楊家界、天子山、索溪峪は奇峰林立の幻想的世界である。

老子は道教の始祖であり、桃花源記の舞台が湖南省武陵源近辺ではなかろうか、という見方は、地形の記述の一致する点があることなどによって、成り立つ。このあたりはトゥチャ（土家）、ミャオ（苗）、ペー（白）、ホイ（回）などの少数民族が古来居住している。このあたりも、記述に沿っている。



天子山のかご屋

ただし、中国の市場経済化の波は世界遺産に指定されたこの一帯をも襲い、1996年9月にこの地域の観光地天子山を筆者が上ったとき、竹ざおを2本渡した簡素な駕籠をかついだ、大勢の住民が観光客にまわりつき、利用するよう執拗に勧誘していた。気前の良い華僑や台湾あるいは日本などから来た観光客がチップをはずめば、1日のみいは1か月分の平均収入に匹敵する。武陵源の観光地化はフンザよりも進行していた。

中国人が「理想郷」とした世界は、桃の花が咲き乱れ、水清く、山に囲まれた平和な農村である。そこで1人あたりのGNPは問題にされなかった。しかし、理想郷＝桃源郷とされた武陵源は観光客を収入源とする住民の増加で、老子が理想とした「小国寡民」から遠ざかりつつある。フンザよりも観光公害の汚染度は大きいように思われる。

陶淵明の桃花源記にあるように、桃源郷は2度と訪れることのできない心象世界の存在かもしれない。大国には大国の責任、義務があり、マンモスのように自分の重さに悩まなければならない。近代の歴史上、不良債権問題をうまく解決できた国は例外なく小国だと指摘する経済学者がいる。小国には小さいがゆえに、効率的行政ができる、素地がある⁶⁾。フンザには警察官が1人しかいない、という⁷⁾。

長寿の里フンザ

フンザの住民は開放的で観光客を屋内に招き入れ茶を振舞ったりしており、治安が乱れているという話を現地で耳にしなかった。ただし麻薬、覚醒剤を安価で手に入れ美しい景色とあいまって夢幻の境地をさまよう日本人の若者が少なからずいる、とガイドが言っていた。援助団体（NPO）の後押しでフンザの住民が手提げなど小物のみやげ物をつくり、ささやかな現金収入を得る。そんな試みが軌道に乗ってきた。

こんな形で商品経済の波はフンザにも押し寄せているが、世界の人を魅了してやまない最大の理由は「がん患者がいない最高レベルの長寿国」という

イメージであろう。これこそがフンザ桃源郷説の有力な根拠かもしれない。

日本の健康食品会社「びわきゅう遠矢」は①フンザの人々はアンズとその種子（杏仁）を常食にしている②アンズと杏仁にはアミグダリンという青酸配糖体が含まれている③フンザの人々は欧米人の約 200 倍もアミグダリンを摂取している—と指摘している。また米国のアーネスト・T・クレブス博士はフンザにガン患者がいらない理由を求めて杏子からビタミン 17 を発見し、1952 年、ガンは必須栄養素の欠乏から起きると発表した⁸⁾。

フンザ男性の 1 日の蛋白摂取量は約 50 グラム。それに対し日本人は 80 グラム、米国人は 100 グラム摂取している。フンザ人がほとんど植物性蛋白なのに対し、日本、米国はそのほとんどが動物性であるという。動物性蛋白の過剰摂取は心臓病と関係があり、また骨粗しょう症の原因になるという研究報告がある⁹⁾。

「適度な貧しさ」や文明の利器を使用しない不便さが長寿をフンザにもたらしめていることは想像できる。また人口密集の都会に住む市民特有の各種ストレスと無縁であること。これも長生きを後押しするだろう。都会的ストレスがない点も「桃源郷」度を点数でつければ、マイナスにはならない。

医療面では移動医療隊のジープがカロコルム・ハイウェーを使って村むら廻っている。重症患者は近くの都市の病院に収容するという。医療面では予防医学の面でフンザは進んでいるが、難病治療となると欧米に比べ劣るかもしれない。

政治面でフンザは 1974 年まで、藩王が内政を統治し、歴代の藩王にそれほど人望があったわけでもなく、バルチット城という藩王の居城には政治犯を収容する牢獄があり、藩主を批判した村人が幽閉されていたという。また近年は旧ソ連、中国、英国、パキスタンなどさまざまな政治的圧力をフンザは腹背に受けていた。これを考えれば、並大抵の政治的ストレスではなく「桃源郷」気分も吹き飛んでしまう。

結び

桃源郷とは心象世界の言葉であり、政治学的には理想郷というべきかもしれない。フンザは理想郷という基準を完全には満たしていないかもしれないが、桃源郷には近い、といえる。

桃源郷を数値で定義するには空気や大気の汚染濃度の低さ、住民の抗ストレス度、寿命の長さ、犯罪の発生率、喫煙率、飲酒率などともに、人口密度の低さを考慮しなければならないだろう。そして山紫水明の景観も。

注

- 1) <http://www.h2.dion.jp/~biwa-ha/kenkou1.htm>
- 2) 日本では高畠通敏訳で岩波書店から出版されている。
- 3) 守屋洋「老子」PHP 研究所 1988 年 7 月
- 4) 陶淵明〈桃花源記〉小考 大東文化大学 門脇廣文
<http://www.daito.ac.jp/~kadowaki/lao-hu/katudou/gyouseki/t.../tokagen-1%20html.ht>
- 5) 「陶淵明全集（下）」松枝茂夫・和田武司注（岩波文庫）
- 6) 日本経済新聞 2001 年 5 月 16 日 東京大学教授 神野直彦は「景気回復と財政再建 スウェーデンに両立の道」と題した論文で次のように述べている。
第 3 のパターンは景気回復にも財政再建にも成功したスウェーデンである。二兎を追い、二兎を得たといえる。スウェーデンは日本以上に金融自由化でバブルに踊ったけれども、すでに財政は GDP 比で 2 % 程度の黒字を実現している。しかも失業率は急激に上昇してきた日本をしり目に、2000 年には 4 % に下げるという公約を達成しつつある。経済成長率でも 1999 年にようやく 0.5 % に復帰した日本とは対照的に、3.6 % の高い成長をおう歌している。
- 7) <http://www.east1.co.jp/~trywell/orgtour/hunza/index.html>
- 8) <http://www.h2.dion.ne.jp/~biwa~ha/kenkou1.htm>
- 9) <http://www4.enjoy.ne.jp/~shokujin/nutrition.htm>